

鉄道と地域切り捨てるな

久留里線廃線・バス運行計画案を発表 6/23 第1回君津市地域公共交通会議



6月23日、君津市の第1回地域公共交通会議が開催されました。

会議は、「発言も拍手もしてはいけない」「従わない場合は退場」という、地域住民の声を封じるための許しがたい条件付きでした。

「代替交通」と廃線が前提

会議の6番目の議題が「JR久留里線（久留里～上総亀山間）の代替交通について」でした。議題のタイトルがすでに、「久留里～上総亀山間の廃線前提」というものでした。

「現時点ではたたき台」といいながら、資料には具体的に代替バスのルート、本数、料金などが示されています。

さらに、8月に住民説明会、9月に議会報告、12月頃に第2回交通会議、3月頃に第3回交通会議というスケジュールまで明らかにされました。

バス転換では解決しない

こうした廃線・バス転換計画は、「JR東が廃線を決めたことをうけ」、作成されたものと報じられています。千葉支社は「地域の役に立っていない」などといっています。しかし、「バス転換」は決して「解決策」にはなりません。

全国で廃線―バス転換したケースを見れば、利用者数を当初は維持できても、年々減少し、バス本数も減少していつていきます。また、廃線化された地域は存続した地域に比べて、人口がより早く減少することも明らかになっています。

誰が列車を削減したのか

そもそも、日中に5時間半も列車がなく、「乗ろうと思っても乗れない」ほどに列車を削減したのはJRです。それで「利用者が少ない」などといって、廃線しようなど、許されません。

利益のために地域の生活と鉄道を切り捨てる―それは、現場に対してかけられている融合化や組織再編、外注化などの攻撃と一体です。地域の仲間とともに、廃線化、組織再編、外注化反対の声をあげよう。